



あ
い
の

Vol.7

2011. 4月発行

Contents

- ・院長就任のご挨拶
- ・新任医師のご紹介
- ・摂食・嚥下障害シリーズ
- ・ダイバーショナルセラピー

院長就任挨拶



院長 福田泰樹

関西地方にも体を感じるほどの揺れをもたらした東日本大震災は、未だ被害の全容さえわからない状態です。関西在住にもかかわらず、ご家族やご親族が被災されたという方が多数おられます。まずは、改めて被災者の皆様から心からお見舞い申し上げますとともに、不幸にも犠牲になられた方々に哀悼の意を表させていただきたく存じます。

さて、平成23年3月19日をもちまして、医療法人 恒昭会 藍野病院の院長を拝命いたしました。当院は昭和40年に精神科病院として設立されました。精神科疾患をお持ちの患者様でも身体疾患の治療をおろそかにしてはならないとの創立者のお考えは「病める人々を医やすばかりでなく、慰めるために」の理念として連綿と職員に受け継がれて参りました。その結果、診療科は、認知症を含む精神科（リエゾンセンター、老年心身医療センター）は当然のことながら、内科（神経内科、内分泌・代謝、呼吸器、循環器、消化器・肝臓、膠原病、東洋医学）、外科（一般消化器外科、呼吸器外科）、整形外科、泌尿器科、婦人科、耳鼻科、眼科、皮膚科、小児科（発達障害）、血液浄化センター、歯科など急性期病院と何ら変わらぬ充実したものとなり、969床の病床有する病院へと発展して参りました。

数ある府下の精神科病院の後ろ盾として大きな社会的使命を果すとともに、今後、「病める人々を医やすばかりでなく、慰めるために」の理念の下に培った当院ならではの経験を生かし、地域の認知症診療にも大きく貢献して参りたいと考えております。認知症患者様はご高齢の方が多く、身体の何処かに具合の悪いところをお持ちです。認知症症状をコントロールしながら経過中に起こる様々な身体の病気を診ることが出来なければ、しっかりとした認知症診療ができていたとは言えません。この点において、当院の経験は認知症患者様、そしてそのご家族様に必ずお役に立てると信じております。

一方、診療科の充実によって地域の患者様に、良質な医療を提供させて頂くことが出来るようになりました。開放型病床の設置や院外検査の実施などと相まって地域の患者様だけでなく、診療所の先生方にも信頼していただける開かれた病院へと、堅実に歩を進めて参りました。特に神経内科、内分泌・代謝（糖尿病）、呼吸器、膠原病、東洋医学などは専門医がおられる医療機関が周辺には少なく、必ずや皆様のご期待にお応えできると信じております。

患者様にさらに良質な医療を提供し、また診療所の先生方のお役に立てますよう、全職員が一丸となり、今後とも努力を重ねて参る所存でございます。未だ改革は道半ばで未熟な点多々ございますが、何卒ご理解ご支援のほど、宜しくお願い申し上げます。

なお、当院では以前から学校法人 藍野学院や近隣の医療教育施設から臨床実習生を受け入れて参りましたが、23年度から大阪医科大学臨床実習教育病院として1ヶ月ずつ、3名の医学部学生の臨床実習を受け入れるなど、今後も若い医療人の育成に尽力して参る所存です。

ご理解、ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

新任医師紹介

この度、平成23年4月1日付けで内科常勤医として当院に赴任いたしました、尾崎拓郎です。

平成20年に大阪医科大学を卒業し、2年間の初期研修及び1年間の内科後期研修を終え、本年度より当院内科常勤医としてお世話になります。まだまだ未熟者ではありますが、皆様のお役に立てるよう初心を忘れず日々努力していきたいと思っております。御指導御鞭撻の程、宜しくお願い致します。



内科医 尾崎拓郎



内科医 山本直宗

平成23年4月1日付けで内科常勤医として当院に赴任いたしました、山本直宗です。ご挨拶申し上げます。

平成10年に大阪医科大学を卒業し、糖尿病を専門としています。近年、生活習慣病の増加に伴い、糖尿病患者も増加の一途を辿っています。それに伴い糖尿病治療の選択肢も増え、患者様のそれぞれの病態に合わせたきめ細かい治療が必要となってきました。そんな患者様のニーズに答えるべく努力致していく所存であります。まだまだ不慣れな部分があるかと思っておりますが、今後とも宜しくお願い致します。

この4月から藍野病院でお世話になる事となりました、林修平と申します。生まれが高槻であり、微弱ながらこの北摂地域のために貢献できればと思い、帰郷致しました。まだまだ不慣れで各スタッフの方々のお世話になる事も多いと思っておりますが、宜しくお願い致します。



内科医 林修平

はじめまして、ご挨拶申し上げます。わたくし宅間克彦と申します。現在、血液透析の分野でお世話になっております。平成13年に大阪市立大学を卒業してから、主に内科臨床の分野に携わってまいりました。また、精神科臨床も縁あって3年ほど他院で経験させて頂きました。周知のとおり、社会の高齢化に伴い多々な合併症を持たれる患者様が増えておられます。ひとりひとりの患者様を丁寧に診させて頂くと言ひ換えることができるか



内科医 宅間克彦

もしれません。患者様の治療、そして生活の満足にお役に立つべく日々努めさせて頂きたく思います。患者様、地域の皆様何卒宜しくお願い申し上げます。

2011年4月から藍野病院精神科で勤務することになりました茶谷 奨です。こちらでお世話になる前は、主要各科のスーパーローテートを必須とする新臨床研修制度による研修を大阪市立総合医療センターで2年間受け、その後は精神科救急を中心とした病院で約5年間勤務していました。藍野病院ではリエゾン医療センターの所属として、精神科はもとより一般診療科の患者様の精神的問題解決にも携わっていきたくと考えています。気軽に相談して頂けるような精神科医を目指しておりますのでよろしくお祈り致します！



精神科医 茶谷奨

【摂食・嚥下障害シリーズ2】

～当院における摂食嚥下障害患者への対応～

当院ではVol.6 の 摂食嚥下障害シリーズ1で紹介しました嚥下造影検査（VF）を行っています。そこで食形態を決定しますが、決定後、嚥下訓練を行っていく為には医師、看護師、看護補助、言語聴覚士、歯科衛生士やNST（栄養サポートチーム）などの連携したアプローチが重要です。

嚥下造影検査（VF）検討会

嚥下造影検査（VF）を行った後に病棟スタッフ全員を集め、検討会を行っています。

プロジェクターでVFの動画を再生しながら、食形態や体位による嚥下の違いや訓練方法などを言語聴覚士が根拠づけて説明をします。そうすることによって患者様に統一した援助を提供しています。また食べる喜びを尊重し、安心して食事を摂取して頂けるよう努力しております。



ダイバーショナルセラピー No6

園芸療法について

園芸療法とは植物を上手に育てたり、収穫を得ることではなく「園芸を手段として心身の状態を改善すること」です。

植物を育てる過程が諸機能の維持・増進に繋がりが、身体的・精神的・社会的に良い状態へと促していく事を目的としています。当院でも平成19年に「自分らしく」「もっと楽しみたい」等患者さまの声に応えるべく、DTの一環とし「陽だまり園」を開園し、患者さまには季節の野菜や花を植え、水まきや料理をして、自分たちで作ったものを食べる楽しみも感じてもらっています。

今回は、当院で園芸療法を行っている患者さまの様子をお伝えします。



糖尿病

まずは西洋医学で
血糖をコントロールし
合併症や自覚症状には

吉田麻美
内科医長
漢方医

「本格漢方」朝日新聞出版に掲載されました。

吉田Dr（内科医長）の記事が
本当に頼れる漢方医が治す！
「本格漢方」朝日新聞出版
に掲載されました。

お問い合わせ

総合受付

TEL: 072-627-7611

FAX: 072-627-3627

入院のご相談は
「地域医療連携室」
まで

季刊誌「あいの」を最後まで
ご覧いただき、ありがとうございます。
新しい年度を迎え、新入職員
が入りどこの部署も活気づいて
います。初々しく働いている
姿を見ると初心に戻る思い
がし、職員一同が、より良い
医療を地域の皆様方と深い信
頼関係を築きながら頑張っ
てまいります。

「あいの」を病院と皆様方と
の架け橋として今後もご愛読
をお願い申し上げます。

最後にになりましたが、このた
びの東日本大震災により、亡
くなられた多数の方々のご冥
福を祈念し、謹んでお悔やみ
申しあげますとともに、被害
された皆様に心よりお見舞い
申しあげます。

当院でも受付カウンターに募
金箱を設置致しました。
募金につきましては、日本赤
十字社を通して義援金として
送金させていただきます。

編集委員一同